血液のがん（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など）

1. 診断

（1）精密検査（確定診断）

悪性リンパ腫を疑う場合は、麻酔を行い、しこりのあるリンパ節（可能ならば頸部リンパ節）あるいは腫瘍の一部を切り取り、顕微鏡で観察します（リンパ節生検または腫瘍生検）。

白血病や骨髄腫を疑う場合は、血液検査以外に骨髄検査（骨盤の骨の一つである腸骨に針を刺して、骨の中にある骨髄組織を採る検査）を行います。

多良間診療所と徳洲会病院では困難ですが、宮古病院で可能です。また、本島のがん診療連携拠点病院（➔P41）でも可能です。

（2）病期や病型分類を決定するための検査

治療の方針を決めるために、病期（ステージ／ stage＝病気の広がり、がんの進行の程度）や病型を決定することが必要です。

多良間診療所と徳洲会病院では困難ですが、宮古病院で可能です。

2. 治療　※詳細は担当医にお聞きください。

（1）化学療法（抗がん剤、分子標的治療薬など）

多良間診療所と徳洲会病院では困難ですが、宮古病院で可能です。

現在のところ、強力な化学療法の初回治療に関しては、本島のがん診療連携拠点病院を紹介しています。化学療法の継続が必要な場合は、宮古病院で化学療法を行っています。また、弱い化学療法は、最初から宮古病院で行っています。

（2）放射線療法（がんに治療用の放射線を当てて、がん細胞を破壊して、がんを消滅させたり小さくする治療）

がんの種類、病期や病状によっては、放射線治療が必要になることがあります。

宮古医療圏（多良間村、宮古島市）では困難なので、本島の放射線療法が可能な病院で治療を受けることになります（➔P45）。



